

北海道師範塾
「教師の道」

塾頭通信

第700号 平成26年3月7日

夢から希望へ、そして目標へ

夢は希望に変わり、やがて希望は目標となる。

誠に卑近な話ですが、日々塾頭通信を書き続ける中で、夢が希望に、そしてそれが目標に変容していく心の変化を、少しだけ感じています。

塾頭通信を書き始めたのは平成23年2月、今から3年前の事になります。その頃は、1千号を目指すというのは、口ではいっても実際は現実感のない、夢物語の様なものでした。

「1千号迄行ったら良いな」という思いはありましたが、取り敢えず走り始めました。夢が単なる夢でなくなったのは、200号も過ぎたあたりからでしょうか。1000号という目標が夢としてではなく、到達したいという強い願望へと変化して行きました。つまり1000号は夢から希望に置き換わったとあって良いでしょう。とはいえ、その当時、1000号は遙かに遠い先で、確実に到達できる自信があった訳ではありません。その希望が、明確な目標に切り替わったのは500号に到達した時でした。それは、息を切らしながら峠を登って行くと、急に見晴らしの利く所に出て、後は下って行けばゴールに着くという事が分かった、そんな時の心境に似ています。今迄は、手が届くとは思えなかったゴールが、はっきりと見えて来た瞬間でした。その時、1000号は、希望ではなく到達すべき目標に変わったのだと思います。

塾頭通信を書くというのは、希望や目標を語るには誠に小さなものですが、希望や目標というものは、大事なものはその大小にあるのではなく、夢や希望、更には目標を持って日々行動する事にあるのではないかと私は思っています。

また、夢や希望、目標は一つとは限りません。私にとっても、塾頭通信1000号というのは、幾つかの夢や希望、目標の一つに過ぎませんが、しかしその存在は、私の日々の行動に大きな影響を与えています。

私は、夢や希望、目標の存在は、人が人として生きて行く上での大切なパワーの源であり、支えでもあると思っています。しかし現実には、「夢や希望なんか持てない」と考えている若者達が少なくありません。

東京大学の玄田有史教授は、仕事に就く事が出来なかつたり、不安定な雇用状態にあつたりする若者の多くには、共通して欠落しているものがあり、それは、自分

に対する希望、働く事に対する希望、社会に対する希望等、人によって違いはあれ、希望そのものだと述べています（同氏著「希望のつくり方」から）。

成熟した社会の中で、物質的な豊かさに囲まれているのに希望だけがないというのは、誠に不幸だと思います。希望というエネルギーを持たなければ、そうした閉塞環境から抜け出す事も困難ではないでしょうか。

昨年の全国学力調査における児童生徒への質問紙調査は、見逃せない結果を示しています。それは、「将来の夢や目標を持っていますか？」という質問に対する北海道の児童生徒の反応です。

左表を見て驚くのは、夢や希望を持っていると答えたのは、小学生で約7割、中学生では半分以下です。どちらかといえば持っていると答えた子を含めても、小学

平成25年度学力調査質問紙超結果

【将来の夢や希望を持っているか】

	持っている	どちらかといえば持っている	どちらかといえば持っていない	持っていない
小学生	70.5%	15.5%	7.5%	6.4%
中学生	46.9%	25.3%	17.5%	10.2%

生の約15%、中学生に至っては3割弱の子ども達が夢や希望を持っていないと答えています。

玄田教授の調査によれば、およそ3人に1人は「希望は全く

ない」あるいは「実現可能な希望は持てない」と考えているとしています。こうした中、私達は、中学生の3割が、夢や希望を抱く事が無いままに成長し、大人になって行くかも知れない現実に、危機感を持つべきだと思います。

玄田教授は、希望は「現状の維持を望むというよりは、現状を未来に向かって変化させていきたいと考える時に現れる」ものだと述べています。また、「希望を持つためには、きびしい現実から目を背けないことが、まず重要になってきます。過去から現在まで続いている挫折や試練を正面から受け止めることで、その状況を変えるんだという思いは、生まれます」とも述べています（同氏著「希望のつくり方」）。

そうしてみると、自分には夢も希望もないと嘯く若者達は、自分自身の今をしっかりと受け止められずに、ただ現状を諦めているのかも知れません。自分で自分に諦める、これ程辛い事はるでしょうか。

置かれている環境がどんなに厳しくとも、若い人々には希望を持って、その困難を乗り越え、そして、希望を実現可能な目標に据えて前に進んで欲しいと願っています。若者達が夢や希望を持てる社会の実現の為に政治が果たすべき責任は大きいと思いますが、同時に、玄田教授がいう様に「希望は人から人へと伝播して行く」ものだから、若い世代が夢や希望を持って生きる為には、まずは彼等の先を生きている世代が、自分自身が希望を持って生きている姿を示して行くことが大切だ（同氏著「希望のつくり方」から）というのは、まさにその通りだろうと思います。

（塾頭：吉田 洋一）